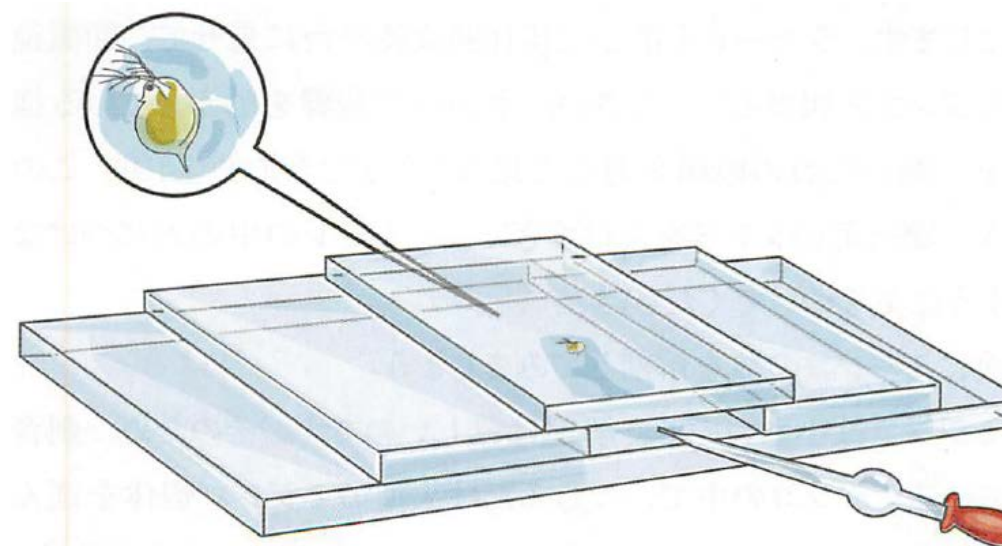


① 用意するもの

- 実体顕微鏡（倍率は1～5倍程度）
- スライドガラスとカバーガラス
- 柄つき針 2本
- ワセリン（少々）
- スライドガラスが入る大きさのシャーレ
- ピペット
- ティッシュペーパー

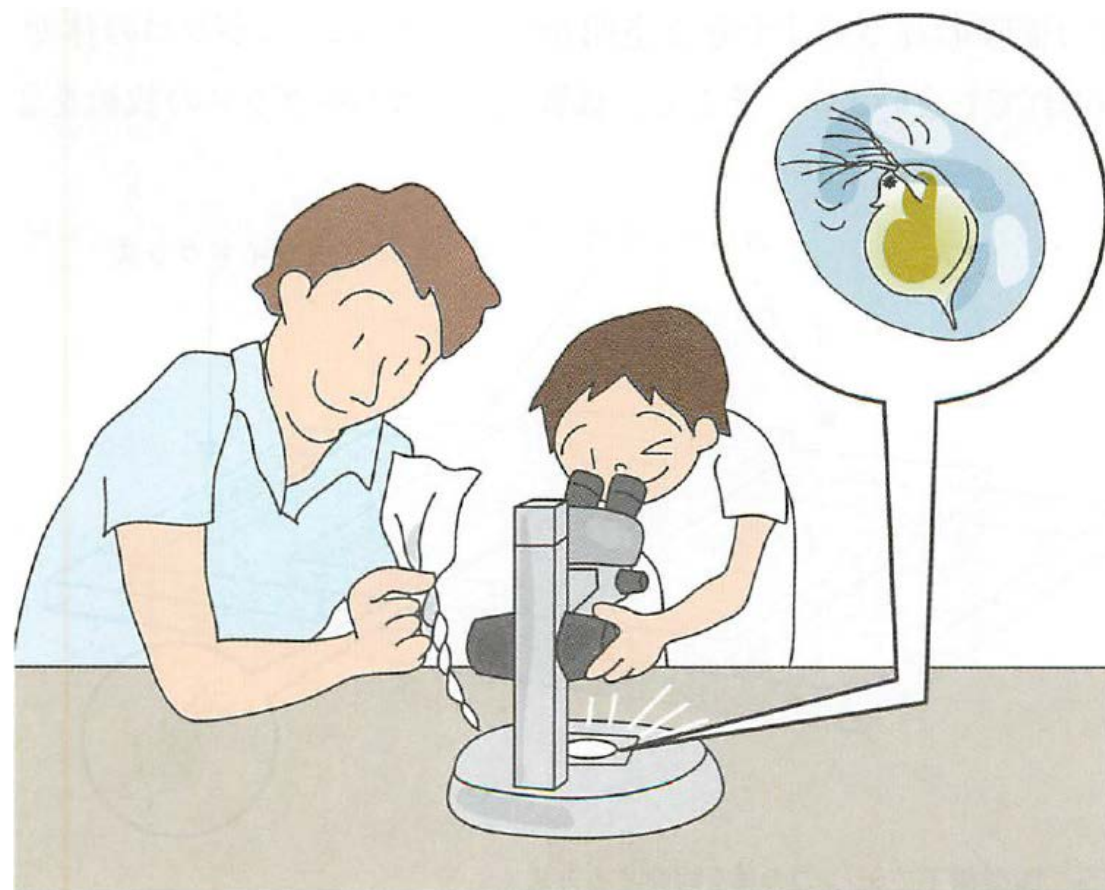
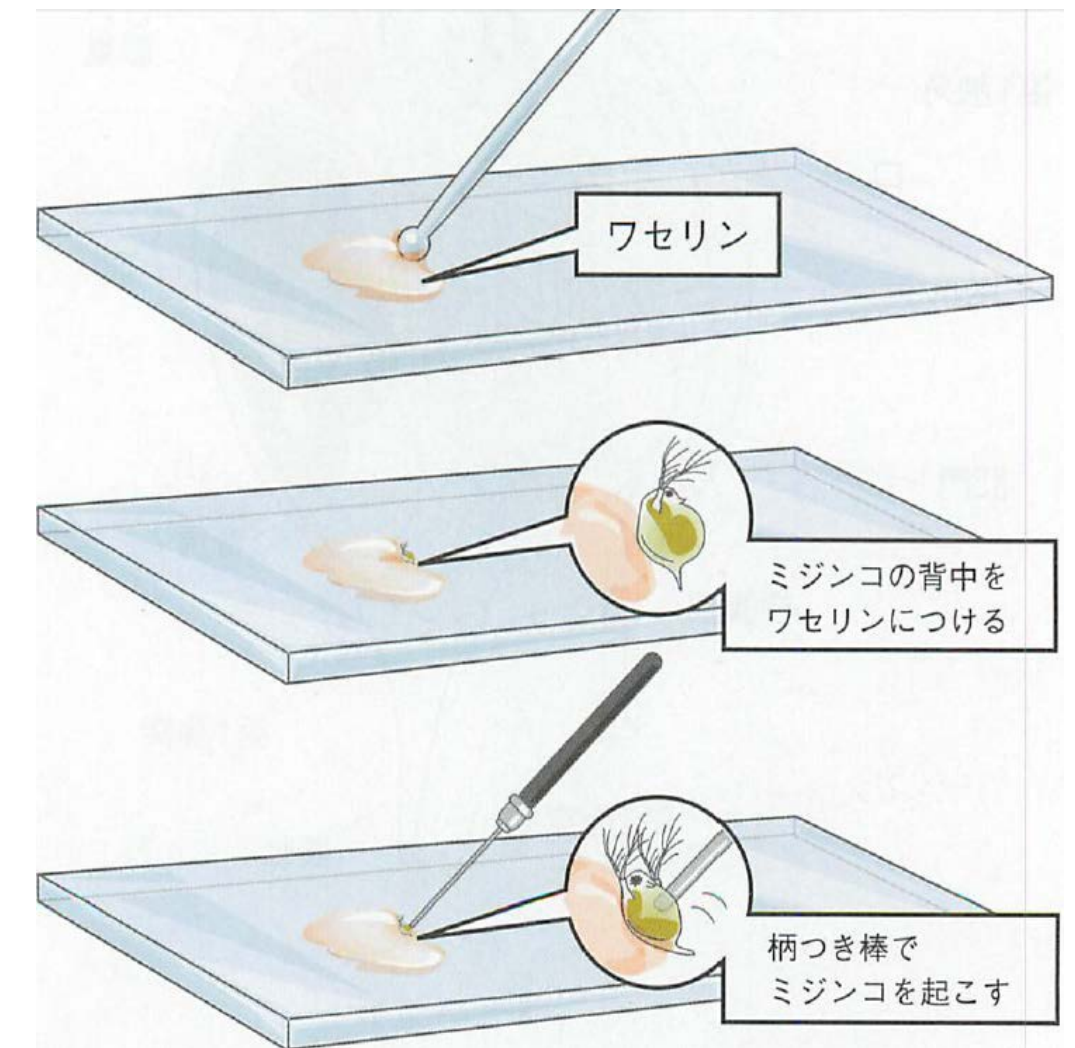
② 観察する方法

実体顕微鏡でのぞくと、水滴の中で窮屈そうに動いているミジンコが見えます。動きを止めるには、ティッシュペーパーをこよりにして、ミジンコの周りの水を吸い取ります。



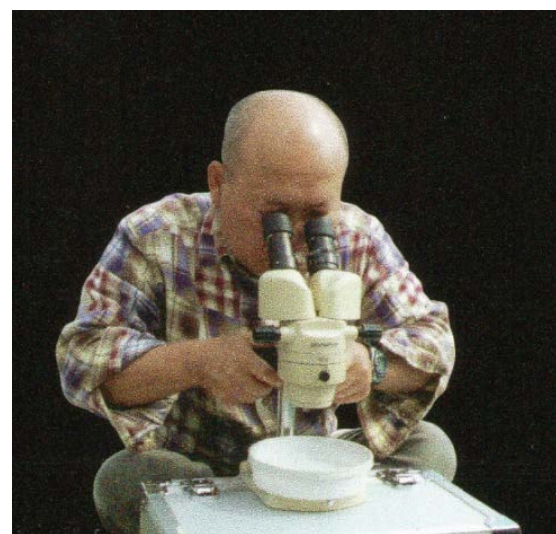
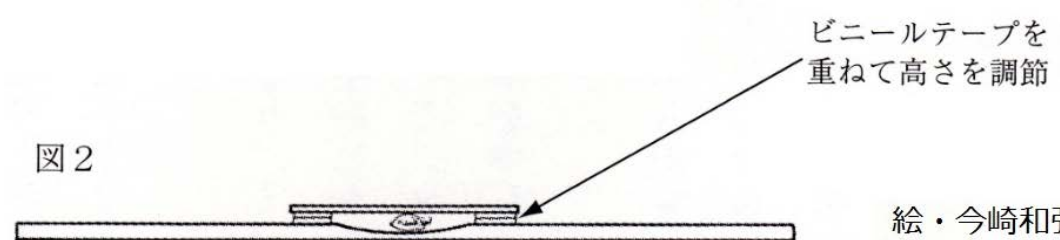
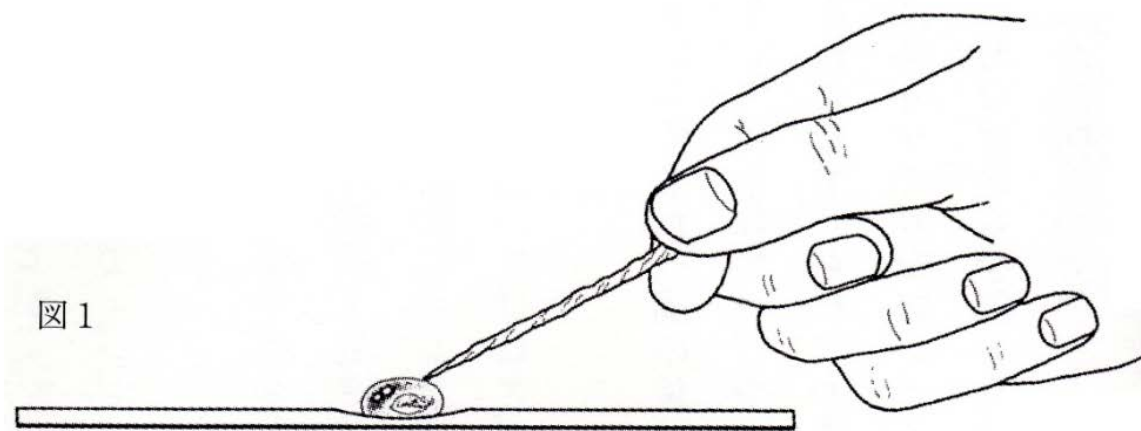
スライドガラスの上に少し狭い間隔を空けて、2枚のカバーガラスを置きます。スライドガラスの上に1滴の水を落とし、その上にカバーガラスを置いてください。この2枚のカバーガラスの間に、ミジンコ1匹を置きます。

③ 正面から観察しよう





ミジンコを覗くときの工夫



坂田さんの観察風景



生きたミジンコは動くので、一番困るのです。とくに腹部にある遊泳肢は常に動いているので、なにがなんだかよくわかりません。(中略) 驚塚さんの図2の方法だと、水の量はかなりある上に、ミジンコは動きにくい。ビニールテープを切って高さを調節するというアイデアには恐れ入りました。感謝感激でした。

『ミジンコ大全』より